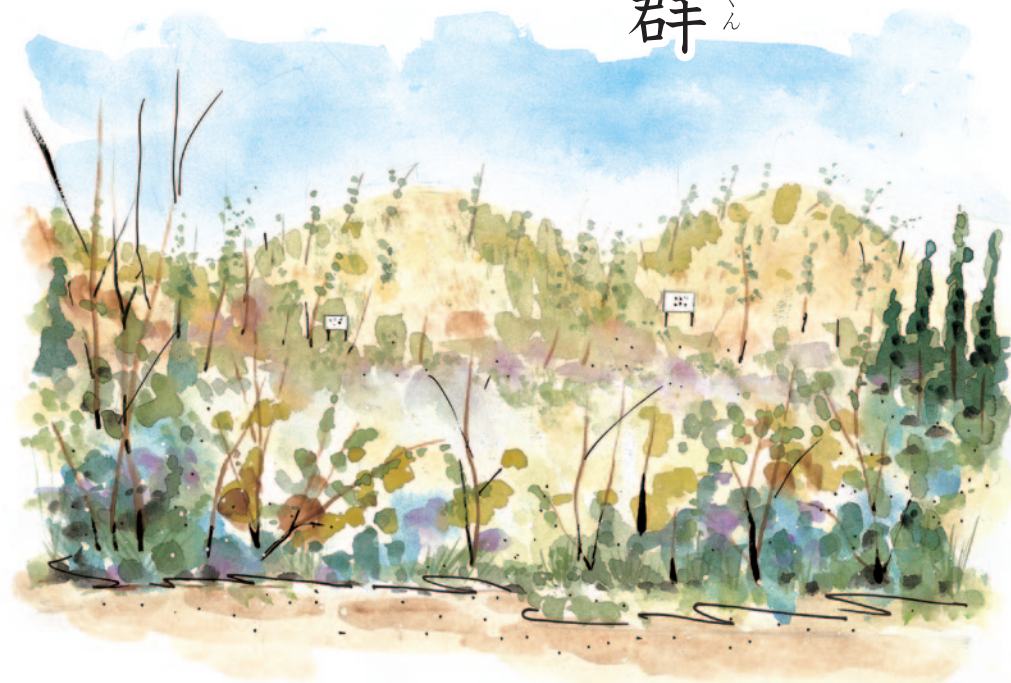


分校前山

千八カ山古墳群



国道8号より千八カ山を望む



ササユリ



分校山王古墳出土品



千八カ山観察園



前山の鏡

分校町の南にある丘陵上に、古墳時代前期から後期にかけて数多くの古墳が築かれています。確認されたものだけで七〇基以上あり、もとは一〇〇基程度の大古墳群であったと推定されます。最初に分校前山で築かれた古墳は、平地に面して時計の逆回り方向に、分校千八カ山・松山東・分校神奈備山へと、年代が新しくなることに丘陵縁辺を移動し、終末期の那谷金比羅山古墳へ続いたものと考えられています。これらの被葬者は、動橋川の水利権を掌握した、畿内王権と結びつきの強い豪族の墳墓であったと推定されています。

【分校前山支群】

通称前山の尾根上にある古墳群で、前方後円墳四基、円墳二基、方墳二基が残っています。一号墳が発掘調査され、木棺内から中国製銅鏡・槍・鏃が各一点と、首飾りの管玉七点が出土しています。銅鏡は中国前漢時代の舶載品で、中央政権から地方豪族に分配したものとされ、畿内との結びつきを示しています。

【分校千八カ山支群】

前山支群の西南にある丘陵上に、円墳二基、方墳七基が確認されています。ここも尾根上に大型の円墳が並び、方墳は一段低い位置に築かれています。発掘調査が行われていないので、詳細は解りませんが、前山に後続する古墳時代前期末から中期初頭に造営されたと推定されます。